

いっぽ いっぽ

～私の子育て体験記 12～

平成 29 年 12 月

高知県立山田養護学校

PTA 広報部

子育てにまつわる苦労や喜びなど、実際の体験や思いを多くの方に知っていただこうと、山田養護学校の保護者の「子育て体験記」第12弾をお届けします。

この体験記が、一人でも多くの皆さんの手助けや子育ての参考になり、仲間との架け橋になることを願っています。



ずっと笑顔で♪

1.はじめに

昨年2学期から、山田養護学校でお世話になっています小6の女の子です。

奈良の地域の小学校支援学級から転校してきました。関西生まれの関西育ちのため、新喜劇や笑点、ダウンタウンなどのお笑い番組が大好きな明るい娘です。現在も、発語は少ないですが、相手の言うことはよく理解しており、指差し、ジェスチャー、一部に絵カードを使い、コミュニケーションを図っています。イケメンが大好き、フィギュアスケートも大好きです。自分のことも大好きで、自分のDVD、写真、鏡、影さえも好きです。自宅のDVDには、自分のDVDに加え、笑点、フィギュアスケートの浅田真央ちゃん、羽生結弦くんの大会の録画がたくさんあり、日々、繰り返し繰り返し見えています。最近はスマホの扱いも手慣れたもので、YouTubeから自分好みのサイトを見つけ出しては世界を広げています。

2.これまでの親の願い

これまで、(1)健康に育ってほしい、(2)人を好きになってほしい、たくさんの人に関わってほしい、(3)高校卒業後、自立できるレベルになってほしい、(4)毎日楽しく笑顔で過ごしてほしい、という4つを、両親の願いとして思い続けてきました。

(1)については、幼少期、気管支が弱く、風邪をひいたら即、肺炎=入院=最悪の事態と医師から宣告され、通院

以外は外に出るなど言われたこと、大阪の総合病院で生まれ、NICUに入り、毎日、周囲の子が命と向き合うという経験をしたからです。(2)および(3)については、親がいつまでも元気でいられるわけではないので、いつかは施設やグループホームに入らざるを得ないこと、将来にわたって、人様にお世話にならざるを得ないことを考えると、少しでも楽しく毎日を過ごして欲しく、人との関わりを楽しんでほしいこと、そして自分でできることは自分でして欲しいと願っているためです。さらに、(4)については、インドアよりアウトドア派に、ひきこもりや不登校にはなってほしくないと願ってきました。また斜視もあり、見た目から子供たちの好奇の目にさらされることも多いので、人の目を気にせず、堂々と強く生きてほしいと思っています。

3.生い立ち

娘がお腹の中にいるときに異常が発見され、奈良から、大阪の総合病院へ転院しました。逆子のため、帝王切開で生まれ、すぐNICUに入り、ヌーナン症候群と告知を受けました。主な症状は低身長、難聴、眼瞼下垂で、知的障害はあまりないとの内容でした。低身長であればホルモン治療必要とのことでしたが、成長曲線のTOPの線をさらに上回った成長を続け、ないと言われた知的障害が最も出現しました。今では、診断書にヌーナン症候群疑いと記載されるようになっていきます(笑)。

退院後、秋生まれだったため、風邪シーズンと重なったこともあり、通院以外は外に出ないようにと医師から言われました。寝返りが遅いことを相談したことから、7か月頃より、リハビリに通うことになりました。娘の人見知りの時期

と重なったこと、当初かなり痛みを伴ったリハであったことから、泣くために通っているようなものでした。さらに周囲は障害児と思いき子ばかりで、父母ともに、まだ娘の障害を受け入れることがままならない時期だったため、この頃が、精神的に一番つらかったことを思い出します。

1年が経った頃、母の育児休暇終了に伴い、娘を保育園に入れることを医師に告げた時のことです。いまだ、風邪=肺炎=入院=最悪の事態と考えていた医師から「子供の命と仕事どっちが大事なの?」と、きつくきつと言われたことがありました。幸いにも待機児童がたくさんおり、市役所から4月入所を提案され、自宅で冬を乗り越えました。幼少期は、最悪の事態を想定し、あらゆる病院に通院カードを作って対処するよう、医師から提案を受けました。通院カードの有無で、救急車搬送の受け入れの優先度が変わるとの見解でした。幸いにも、それらの通院カードも救急車も使うことなく、元気に育ってくれています。

1歳半を迎えた4月から、2週間の慣らし保育を終えた途端、7時半から19時まで、預かってくれる最大の時間を保育園で過ごす生活が始まりました。娘はもちろん、父母ともに忙しさに明け暮れ、落ち込む暇も、悩む間もありませんでした。

2〜3歳になるまではしょっちゅうお呼び出しがあり、さらに2歳前に熱性けいれんを経験してからは、通常37度5分でお呼び出しの電話がかかるところ、37度で電話がかかるとい生活が、1年間続きました。大阪の総合病院にも定期健診で通院しており、父母ともに、年次休暇を、毎年使い果たしているような状況でした。

3歳前に、ようやく一人歩きができるようになりました。その1年以上前から、主人と娘は、約1km強の道のりを、約30分かけて歩いて登園しました。これも訓練になると、主人の強い思いがあったからです。赤ちゃんの頃からの友達だったので、大きなトラブルもなく、お世話好きな女の子たちに囲まれみんなから面倒をみてもらいました。3歳頃は、「なんでおしゃべりできないの?」「なんで歩けないの?」「なんで〇〇できないの?」と、よく子供達から聞かれました。子供の残酷な言葉が何度も胸に突き刺さりつつも、「おしゃべりできないけど、みんなが言っていることはよくわかっているから、いっぱい話しかけてあげてね」「できないことあるけど、助けてあげてね」と答えていました。

療育も勧められ、保育園から週2回通園しました。療育が10時から15時までだったので、父母ともに対応できないことから、介護タクシーやファミリーサポートの方など多くの方に支えていただきました。

この頃からお洋服の前後をわかってほしいと、お名前を書いた名札を、シャツ、ズボンなどすべての前部分に縫い付け、「お名前が前だよ」と常に伝えつつ、お洋服の脱ぎ着をしました。いまだに続けてやってもらっています。

さらに、いろんな人に関わってほしくて、年中さん以降、土日に通えるポーテージ、ピアノ、スイミングを開始しました。将来にわたって、いろんな人に支えてもらわなければならない子なので、とにかく人を好きになってほしかったですし、いろんな人に関わることで、いろんな関わり方があることも知ってほしかったからです。

スイミングは、当初プール中に泣き声が響き渡り、行くことも嫌がりました。しかし、がんばること、我慢すること、我慢した後のやれたという達成感を学んでほしかったので、泣こうがわめこうが、めげずに通いました。1年を過ぎた頃からようやく泣かなくなり、その頃から浮かぶ楽しさ、水の楽しさをわかってきたようで、顔つけ、素潜り、バタ足へと急に進化しました。赤ちゃんの頃に大きな声で泣けていなかったのも、内臓の筋肉が鍛えられておらず、声が小さかったのですが、そのプールでの1年間の泣き叫びのおかげで、鍛えられ、日常で発する声が格段に大きくなったように思います。今ではうるさい!静かにしなさい!なんてこともしょっちゅう言って注意しているくらいです。

また母にとっても、スイミングで知り合った小、中、高校の障害児の先輩ママから、各世代で起こる問題、対処方法など様々なことを教えてもらういい時間になりました。ピアノは、リトミックを中心に対応いただきました。とくに小学校入学前には、入学後に、お友達とも遊べるようにと、アルプス一万尺やお寺の和尚さんなどの手遊びを、繰り返し繰り返し教えていただきました。

遊具のある公園にも、訓練になるからと、よく主人が連れて行ってくれました。さらには、父母の趣味であるスキーも1歳から経験し、一人歩きよりソリデビューが先だった娘です。スキー場には当然のことながら、寒いしソリは怖いしと、娘の鳴き声が響き渡っていました。嫌がりつつも、鳴き声が途中から笑い声に変わり、無駄な経験はないと毎回信じて何度も経験させました。

一方、幼い頃から、行事があると、必ずうんち事件に悩まされてきました。七五三ではレンタル衣装にもかかわらず、行司さんのご祈祷中にきばりはじめ、レンタル着物はうんちまみれ?!なんてハプニングも経験しました。その後も、運動会、音楽会、遠足という、うんち事件勃発。緊張するとうんちが出るようで、いまだに、先生方にご迷惑をおかけしています。

また、幼い頃から心がけたのは、お金の価値を教える

ことです。厳密に教えるのは難しいのですが、知らず万引き状態になってほしくないとの思いが強かったです。一人歩きできるかどうかという時期から、買い物に行くと、必ずレジに並び、子供からお金を渡させ、おつりをもらうことを繰り返し経験させました。うまく学んでくれたようで、割に早い時期から、大型スーパーなどで見失っても、大好きなお菓子コーナーか、すでにそのお菓子を持ちレジ前に並ぶ姿を発見するようになりました。

聴覚過敏、感覚過敏もありました。聴覚過敏については、太鼓やハーブなど大きな音が嫌いで、感覚過敏については、親と手をつなぐのも、ボールプールも、小麦粉粘土なども嫌がりました。嫌がることはスイミング同様、同じ経験を何度もさせ、慣れさせました。前者については、地域の小学校の吹奏楽が盛んだったので、年に数回開催される演奏会の情報を教えてもらっては連れて行き、後者については、自宅でもうどん打ち、パン作り、お味噌づくりなどをしょっちゅうしました。嫌いなことをやり続けることで、我慢を覚え、感情の抑止力を学ばせたかったからです。将来、発作的に激情し、意図的ではないにしろ犯罪に結びつくようなことになってほしくないとの強い思いからです。

また、先輩ママから、急な変化、大きな音が苦手な子が多いと聞いていたので、娘へのいたずらをしょっちゅう仕掛けました。例えば、テレビに夢中になっていると、後ろで風船を割るとか、娘がアルプス一万尺をしようと誘ってきたら、アルプス一万尺を歌いながらも、手はお寺の和尚さんなど別の曲の動きをしたりとか、絵本を読んでと来たときは、例えばカラスのパン屋さんを開きつつ、はじめてのおつかいなど別の絵本のストーリーを読むなどです。その他にも日々、いたずらを進化させ仕掛けてきました。あまりにしょっちゅういたずらを仕掛けてきたので、今では、「ママ、なんかボケろよ」と言わんばかりのニヤニヤ顔で、ママに近寄ってくるんですよ。いたずらをしすぎたかしらと、反省のこの頃です。

小学校は、地域の小学校を選択しました。家から近かったことありますが、仮に、親が目を離した隙に家を飛び出してしまった場合、地域の学校に行っていれば、見かけた子供が必ずいて、早くに見つけられるだろうとの思いからです。さらに、健常児たちにひっぱってもらい、伸びてほしいとの思いと、勝手な願いですが、健常児たちにとっても、思いやりの心を育てるいい機会になってほしいとの強い思いがあったからです。実際、保育園では、娘のいる学年は本当に優しいと、毎年担任の先生方から伺ってきましたし、他の障害児の通う保育園、小学校で

のあるある話のようです。

小学校に入っても、変わらず忙しく過ごしました。19時まで学童に見てもらい、土曜日の午前中はリハビリ(PT、OT、ST)、午後はスイミング、日曜日はピアノを習いました。唯一の休みは平日の祝日のみでした。その祝日や土日にも、学校のお友達と公園に遊びに行ったり、泊りがけでUSJ、和歌山アドベンチャーワールド、志摩スペイン村、その他、父母の友人親子ら大勢でキャンプ、スキー…と色々な経験をしてほしくて、あらゆるところに、あらゆる人と行きました。ホームパーティも頻繁に行いました。とくに夏休みは、子供の友人家族を招き、花火大会、BBQと、恒例行事として子供達も楽しみにしてくれていました。お誕生日の近い女子ばかりが集まったお誕生日会にも呼んでもらったり、近所を散歩していると、すぐに声をかけてくれ、公園で一緒に遊びだすなんてこともよくありました。地域の小学校では、学年が上がるにつれて、お友達との差も増すばかりでしたが、特別ルールを子供たちが考えてくれ、一緒に参加できるようにしてくれました。そうした思いやりのある温かい環境で育ち、親の願い以上に、明るく、そして優しい子に育ってくれました。さらに、学校、学童を通じて、集団で過ごすためのルール(思いやりや譲り合いなど)も、教えてもらいました。

家庭では、親が関われるのは、1日のうち数時間しかなかったのですが、幼少期から、ご近所ママを見習い、娘にもたくさんのお手伝いをしてもらいました。療育にもなりつつ、父母と関わる時間をできるだけ伸ばすようにしました。さらに、運動会や音楽会については、事前にダンスのDVDをもらい、毎朝毎晩練習して、本番に臨みました。本番では、周囲の子供たちがたくさんフォローしてくれたので、練習の成果を発揮することができました。子供たちのたくさんのおやさしさに囲まれた学校生活を送ってきました。

そして、奈良から高知へ転校してきました。来て初めて気が付いたのは、言葉の問題でした。関西弁に囲まれて育ってきたなか、先生方の土佐弁の嵐!あのときの娘のとまどった顔は、いまだに忘れられないほどです(笑)。山田養護学校では、今まで以上に手厚いご支援をいただき、当初は遠慮がちだった娘も、今では、クラスに様子を見に行っても、大きな声で素晴らしい返事です!返事に行動が伴ってないよ〜と母の心の声も気にせず、毎日、笑顔で楽しく過ごさせていただいております。

奈良から高知への移動に伴い、生活環境がガラッと変わり、大好きなお友達らとも離れ、大きなストレスを抱えてしまったらどうしようと、正直不安も大きかったです。し

かし、案ずるより産むが易しで、想定以上に早くに環境の変化に慣れてくれました。それも、山田養護学校の先生方のおかげです。

また、今までの娘の1日のスケジュールを考えると、放課後に少し余暇ができること、また高知でも、いろいろな人、いろいろな支援に関わってほしいとの思いがあり、放課後デイサービスも毎日利用し始めました。今では、3事業所に日替わりでお世話になっています。それぞれの事業所さんで、甘えられる先生を見つけ、自宅とはまた違った顔を見せているようです。

4. 今後の課題

高等部までは山田養護学校に安心して登校できる目途がたった今、高校卒業後の進路に思いを馳せています。これまで、先輩ママからは、いずれ施設を考えているのであれば、親子ともに、早くに施設入所を考えたほうがよいこと、子供も柔軟性のある年齢のうちのほうが、新しい環境に早くに慣れることを助言いただいており、いつかは、子供の親離れ、親の子離れも考えていかねばと思っています。

今後は、山田養護学校、放課後デイサービスなどあらゆる人、やり方を通じて、ご支援をいただきながら、日々、さらに成長する娘の姿を見守っていきたいと思います。

5. さいごに

今回、ふれあい教室での講話、いっぽいっぽへの体験記をまとめる機会を頂戴できたことで、幼少期からの親の思い、願いを、改めて見つめなおすいい機会になりました。また親の願い以上に、明るく、元気に、そして思いやりのある子に成長してくれていることも痛感できました。明るい性格は、娘の元々の気質もあったと思います。そこに、親として少しエッセンスを加えることができていればいいなと感じています。ただ、人を思いやれる心は、幼い頃から経験した集団生活のおかげと、今まで関わってくださったすべての皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。こうした振り返る機会をいただきましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



我が家の息子です

はじめまして。中学部3年に息子がお世話になっています。小学部1年からのので、9年目になります。自閉症児と暮らす我が家の話を読んでいただければと思います。特別な事は、ほぼほほしてないので、日々の暮らしの事をただただ話すだけとなってしまいますが、飽きずに読んで頂けたら、嬉しく思います。

息子は、平成14年に元気に生まれました。体はいたって健康で何の異常ありませんでした。母乳はよく飲みました。2時間ちょっとでお腹がすくのか、泣いて泣いて猛アピールするので20分でこちらも限界がきて、3時間立たずに飲ませてしまっていたのでドンドン体重が増え、生後半年くらいで、1歳児並みの体重となり抱っこが罰ゲームの様でした。もちろん、離乳食もよく食べてくれました。そして、よく食べよく飲みは、今現在継続中で中3とは思えない、先生かと思間違うほどの大きな体格、分かりやすく言えば、お笑い芸人のロバートの秋山さんです。

赤ちゃんの時は寝返りハイハイ初歩きともに2~3か月ほど遅かったのですが、特に気にしていませんでした。ニコニコと笑ってくれていましたが、だんだんとこちらの呼び掛けに反応してくれなくなり、意味のある言葉も出なくて、コヨコヨとかゴニョゴニョと言っていました。視線もあまり合わなくなり、3歳上のお姉ちゃんとは明らかに違うゆっくりとした成長の仕方、男の子はこんなものか?と育児書を読んでみると、息子と似た症状の事が書いてあり、もしかして、自閉症なが?と気になりながらも1歳8か月の4月から保育園に通い始めました。

数か月経った時、ベテランの保育士さんから、発達が気になるので心理士さんの検査を進められ受けました。2歳児なら簡単に出来ることが、出来ない。話しかけてもスルー。言葉も出ない、、、やはり知的な遅れがある様でした。すぐ療育福祉センターへの受診をと言われ、予約を取り、診察。診察結果は、その時すぐ言われて、心の準備はして行っていましたがかなりのダメージを受けました。やっぱりかという悲しい気持ち、ハッキリわかって良かったけど、これからどうしてあげたらいいのかという不安な気持ち、何故うちの子かという絶望的な気持ち、色んな感情からの大号泣。涙が止まりませんでした。帰りの運転は、かなりやばかったで

す。この時、ベテランの保育士さんが私の車で一緒に行きましょう。と言ってくれてましたが、迷惑になるし、帰り道寄る所があるとお断りし、別々の車で行きましたが、何十年も子どもを見てきている先生は、息子の障害に確信があったので、帰り道を心配してくれて言ってくれたんだと、後になって分かりました。

それから保育園では、加配の先生についてもらうようになり、1対1でサポート、支援してもらうようになりました。水へのこだわりがあるので、昼寝もせず遊ばせてくれたり、幼稚園の頃は、お昼寝をすると夜なかなか寝ないので、寝かさなide!!という要望にもこたえてくれました。出来た事、失敗した事を細かく連絡帳に書いてくれて、園での様子を知らせてくれました。参観日では、私の姿が見えると帰れる!と思うので、ほとんど行きませんでした。クラスメイトとは、遊ぶことはありませんでした。声は掛けてくれていましたが、いつもスルーだったので、ごめんねーと何度言ったことか・・・わが道を行く、保育園幼稚園生活でした。

言語訓練にも通っていましたが、なかなか言葉が出るまでにはならず、出された課題をやる、書くをゆるい感じで少しずつやっていましたが、小学部5年生の冬頃から、家で居る時に何が原因なのか分からないんですが、ひどく大暴れし、床を殴り、壁に突出し、飛び跳ねながら大号泣するという行動が2～3時間に1回あり、1日に2～3回はあったので、言語訓練も行ける状態ではなくなり、やめてしまいました。お腹が空くと機嫌が悪くなるのは、時々ありましたが、数時間おきに、大パニックを起こすことはなかったので、さすがに参ってしまい、私も度々大号泣・・・最初は、何?何?どうした?と構っていましたが、イライラして怒る時もありました。途中で、構うと余計に悪化する事に気がつき、声もかけず何もせず見守る事にすると、15～20分続いていたのが、だんだんと短くなっていき、5分位で静まるようになり、回数も減り、春頃にはおさまってきて、大好きな水遊びが出来る夏にはすっかり落ち着いていました。何か、原因があるのだろうけど、わかってあげられず、冬が近づく頃、パニックが起こってしまい、またか・・・と凹んでいましたが、1日何回もという事はなく、前の年よりは落ち着いていました。

学校では、そんなに暴れることはなく、家に居る時ばかりだったので、クラスの子たちを、叩く事がなかったので良かったです。療育福祉センターの自閉症児通園『える』にも月2～3回通い、加配の先生にもついて頂き、見通しがもてるよう視覚から伝えるスケ

ジュールを分かりやすく作って頂き、幼稚園でも取り組んでくれました。カードなどを使っても自分から要求を伝える事が難しいようで、なかなかコミュニケーションがうまく取れないし、勉強もついていけないので、やはり地元の小学校は難しく、家族や加配の先生とも話して、体験入学にも一緒に参加してもらい息子には、こちらがあっていると決めました。

入学式では、初めての場所なので、落ち着きがありませんでしたが、嫌!と言う訳ではなく、興味津々で探索している様でした。一番不安だったのは、スクールバスでの登下校。国道沿いにあるバス停で待つのは、恐怖でしかありませんでした。いつ車道へ飛び出すか、バスへ乗るのを拒むのではないかと、騒がずに、学校までちゃんと座って行けるのだろうか、気になってたまりませんでした。本人、バス好きだったみたいで、「外の景色を見ながら、席を立つこともなく静かに行けてます。」と聞き、一安心しました。が、バスが来るまでの数分間は、気が休まらずハラハラでした。あちこち行く方に付いて行かなくてはいけなかったのも、急に方向転換した時に、息子につまずき、ラッシュ時の国道沿いで、豪快にコケてしまった私・・・超恥ずかしい!!!でも、息子の手は放すまい!!と繋いでいたので、その時まだ低学年でしたが、体格もよく力も強かったので、引きずられてしまい、両ひざから流血・・・痛かったです。それ以来は、急な方向転換はしなくなり、学年が上がるにつれ、ずっと手を繋がなくてもよくなり、声掛けで戻るようになりました。

小学部での授業は、カードを見て理解しどんどん進めていき、出来る事がたくさん見つかり、やれる力が凄くある!と言って頂き、息子に合った、個別の支援をして頂き伸びていきました。家では、お手伝いをよくしてくれます。洗濯物をほしたり、入れたり、定位置に片付けてくれたりと、手伝いというか、私の真似をしてやってくれるので、助かります。5年生では、宿泊学習、6年生では、修学旅行があり、家以外では寝たことがないので心配でしたが、クラスメイトは、5年一緒にいるし、知らない場所がダメではなかったので、全然平気だった様でした。学年が変わる度に、先生も半分変わりますが、特に崩れる事もなく、ちゃんと受け入れられ、小学部の6年間は、あっという間でした。

中学部からは、自立のため、寄宿舎生活を始める事になりました。入学式後すぐ寄宿舎での生活が始まるので、前もって何度も話してました。分かっているのかは分かりませんが、お姉ちゃんの高校の入学式が午後

からあり、時間も迫っていたので、私も訳が分からぬまま、担当の方も分からぬまま、言い方悪いのですが、息子を放置して来た状態だったので、心配でした。週末の迎えで、やっとお話ができました。うろうろして舍内を探索して、落ち着いていたと言ってくれたので安心しました。

寄宿舎への入舎の一番の理由は、排便の自立でした。驚かれると思いますが、中学部3年の現在でも排便だけは、部屋の片隅でパンツにしまいます。後の処理も、赤ちゃんの時の様にまだ、拭いてあげなければいけません。きれいに拭き取らなくてはいけない!という事も分からないと思いますが、まずは、トイレでしてくれるように!と、常々願っていて、寄宿舎生活で場所が変わる事で、トイレに行ってくれだすのでは!と期待していましたが、月曜日から金曜日まで、全くなくなり、金曜日、家に帰るとするという習慣になってしまいました。今年で3年目になる今も、舎ではしなくて家ですという体に良くない状況になってしまっているのです、舎の方、担任の先生も心配してくれ、いい方法を考えてくれ試行錯誤で何とかトイレで出来るようにサポートしてくれ、少しずつ前進して行っています。

今でもまだ、言葉は発しませんし、会話も出来ません。でも、時々こっちで話している事に、タイミングよく笑った、うん!と言ったり偶然やないでねと思う事がよくあります。ダメな事をして、叱っている時も、何を言っ

ているのか分かりませんが、やはり中3なので、反抗的な態度の時もありますが、週末、帰って来ると、家族3人が入れ替わり立ち替わり、息子を触りに行きます。もう!やめろやー!とクールな表情で睨まれ、避けられます。家では、DVDを見て、まったり過ごして、時々台所の水道で遊び、水浸しにして怒られるので、逃げて行きます。中学部では、農作業があり、暑がりの息子には外での作業は大変みたいですが、頑張ってる様です。家でいる時とは、全く違う息子なので、こっそり見たい!と常々言っています(笑)

今、一番不安なのは、災害が起きた時。何が起きているかが分からないと思うので、逃げなくてはいけない事や、避難所で過ごす事は難しいと思います。

自立を目標にこれからも学校生活や寄宿舎生活を頑張ってもらいたいと思います。



山田養護学校では…



障害のある子どもの『教育相談』を行っています。
「家庭での生活習慣や身辺自立について、どうすればいいのか」
「どんな教育を受けさせたらいいのか」など、子どもの養育や教育についてご相談に応じます。

ご希望の方は、下記までご連絡ください。

〒782-0016

香美市土佐山田町山田 1361

TEL 0887-52-2195

高知県立山田養護学校 教育相談部

FAX 0887-52-0031

- 「いっばいっば」は昨年に引き続き、療育福祉センター等・関係機関に掲示のお願いに行きます。また、「いっばいっば」のバックナンバーを山田養護学校のホームページからご覧になることができます。
- これまでの子育て体験記もございます。ご希望の方は、広報部までご連絡ください。